（管理規則第３条実施要領　別紙様式）

2024 年度（令和６年度）学校評価自己評価表

培遠中学校区	校番　12	福山市立培遠中学校
最終更新日	2025 年（令和７年）１月 31 日	

Ⅰ　福山市

ミッション　　福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビ ジ ョ ン　　「福山１００ＮＥＮ教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「２１世紀型“スキル＆倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容

・新しい時代に即した取組を行ってほしい。この先大変なことも多々あると思うが、全ては子ども達のために頑張ってほしい。
・地域とのつながりを大切にする子ども達の成長を楽しみに、これからも連携、協力をお願いしたい。

児童生徒の現状

・小学校では学ぶ意欲はあるものの、全国学力学習状況調査における教科学力は若干下回っている。
・中学校では、生徒会活動を中心に、学校の課題の改善に努める取組が充実してきた。
・中学校における長期欠席の生徒は全体の 10.5%である。（R5 全国平均 8.5%）

育成する力（21 世紀型“スキル＆倫理観”）	課題発見力、論理的思考力、コミュニケーション力、粘り強さ
めざす子ども像（義務教育修了時の姿）	自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる
中学校区として統一した取組等	・発信・表現の充実を踏まえた生活科・総合的な学習の時間の単元づくり ・相手・目的意識をもたせた特別活動の充実 ・図書館を含めた学習環境の整備

Ⅲ　自　校

ミッション

知・徳・体の調和がとれ、自らの学校に誇りを持てる生徒を育てるとともに、地域・保護者との繋がりを深め、地域に愛され、信頼される学校教育の創造を目指す。

学校教育目標

夢を志にチャレンジ

～たくましく生きる力を身に付け、自らの進路をきり拓き、地域に貢献できる生徒を育てる～

現　状

＜児童生徒＞
・授業で分からないことはそのままにせず、分かるまで努力している生徒の割合は、１年 68.9%、２年 64.9%、３年 69.3%である。（前年度　１年 76.1%、２年 66.7%、３年 80.4%）
・自分に良いところがあると答える生徒の割合は、１年 66.0%、２年 74.3%、３年 75.2%である。（前年度　１年 76.1%、２年 74.8%、３年 77.3%）
・長期欠席生徒は全体の 10.5%である。（前年度 9.8%）※（R4 全国平均 3.8%）
・日常生活で、生徒会活動を中心に問題発見、解決することが定着してきた。
・一部の生徒で SNS を中心とした人間関係のトラブルが当事者同士で解決できず、大きなトラブルになることがある。（前年度より増えている）
＜授業＞
・総合的な学習では、SDGｓの実現や取材活動を通して、問題解決学習が定着してきた。
・一人一台の Chrome book を活用し、多様な授業方法や評価法にチャレンジしている。

育成する力（21 世紀型“スキル＆倫理観”）		○課題発見力	○論理的思考力	○ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	○粘り強さ
めざす子ども像		Well-being の実現 めざす SDGs、自分で決める、たんぽぽ魂、生活五訓（挨拶・時間・美化・服装・姿勢）、感謝の気持ちを持つを意識して生活し、これらの力を高めていく。			
	中1	身の回りの事象について、課題を見つけることができる。	将来の進路希望に基づいて、その達成に向けて何をすればよいか考えることができる。	お互いの違いを理解し、協働することができる。	困った時にあきらめず、周りに聞きながらでも、現状を改善するために努力することができる。
	中2・3	身の回りの事象について、多面的・総合的に考えて、課題を見つけることができる。	将来の進路希望に基づいて、当面の計画を立て、その達成に向けて努力することができる。	チームとしての立場の違いを理解し、お互いを活かしながら協働することができる。	苦境に立たされた時に自暴自棄にならず、現状を改善するために努力することができる。

研究	テーマ	「生徒が創る学び」の実現（Well-being の実現を目指して） ～　粘り強さを育み、学びのつながりを実感できる授業づくり　～
	内容等	・主体的な学び・深い学びを促す質の高い問い ・学びを深める振り返り
めざす授業の姿		○生徒自身が「やってみたい！」という好奇心を喚起する課題設定のある授業 →　本時の振り返りから、次時の課題へつながっていく ○トライ＆エラーを実践できる授業 →　「間違えた」「分からない」を安心して言える ○「記号接地」をテーマに学びを中心に据えた授業 →　知識技能を定着させ、知っていることを使って考えると分かることがたくさんあるという感覚を生徒が実感できる

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立培遠中学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（２月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
2	主体的に学ぶ力の育成	★	見直し	主体的に学ぶ態度を育む。	▽生徒が意欲的に探究できるような問いや単元づくりを行う。 ▽生徒が自分の学びについて振り返り、自己調整する場面を設ける。	△「もっと学びたい」「授業が楽しい」生徒の割合を 80％以上にする。 △授業の中で、学んだことを振り返っている生徒の割合を 80%以上にする。	□もっと学びたい・楽しい 1年 75%・83% 2年 69%・86% 3年 57%・72% □振り返り 1年 69% 2年 66% 3年 63%	3	2	○３つのテーマで授業実践を行い、授業改善に取り組んだことを交流する機会を設定する。 ○各教科で行っている振り返りを生徒が実感できるものにする。	□もっと学びたい・楽しい 1年 75%・81% 2年 68%・79% 3年 62%・66% □振り返り 1年 70% 2年 67% 3年 63% ◎目標達成に向けた取組は行ってはいるが、主体的に学ぶ態度を育むまではできていない。	2	2	3	○引き続き生徒が意欲的に探究できるよう授業改善を行う。 ○引き続き各教科で行っている振り返りを生徒が実感できるものにする。
			見直し	自らの目標を設定し、学び方を考えながら学力の定着を図る授業づくりを行う。	▽自分で選んだり、決めたりすることができるような授業場面を設定する。	△自分で考えた方法で学んでいる生徒の割合を 80％以上にする。 △授業で学んだことが使える生徒の割合を80%以上にする。	□自分で考えて学ぶ １年　82% ２年　64% ３年　55% □学んだことを使う １年　83% ２年　77% ３年　58%	3	2	○授業者が意図的に学び方を考える授業場面を設定できるよう検証の場を設ける。 ○学んだことを使う例を挙げるなどして確認する。	□自分で考えて学ぶ １年　74% ２年　73% ３年　66% □学んだことを使う １年　79% ２年　74% ３年　76% ◎自分で選んだり、決めたりすることができるような授業場面を十分に設定できていない。	3	2	3	○授業改善の視点として学び方を選べる場を設定する。 ○学んだことを使うような授業を仕組む。
2	自らに自信を持つとともに、感謝の気持ちを持つ心の育成	★	継続	自分で決め、実行することを通して自信を育む。	▽生徒主体となって、自分たちの生活をよりよくするための目標や活動内容を考え、誰もが過ごしやすい学校、誰もがやり直しができる学校にしていく。	△学級や委員会等で自分の役割を果たしている生徒の割合を80％以上にする。 △目標や努力することを決めて取り組んでいる生徒の割合を80％以上にする。	□自分の役割を果たしている １年　82% ２年　84% ３年　84% □目標等を決めて取り組んでいる １年　82% ２年　86% ３年　79%	3	3	○委員会活動の充実化、役割を果たしていることを肯定的に評価できる場を設定する。 ○目標や努力することを決めて取り組んでいることを肯定的に評価できる場を設定する。	□自分の役割を果たしている １年　86% ２年　76% ３年　84% □目標等を決めて取り組んでいる １年　86% ２年　76% ３年　81% ◎自分で決め、実行することは概ねできているが、自信を育むまではできていない。	3	3	3	○委員会活動のみならず、授業を中心に様々な学習活動のなかで自分の良さに気づける場面を増やす。 ○職員全体で生徒それぞれの良さを認め、伝えることを意識する。
			継続	感謝の気持ちをもった言動をしようとする態度を育む。	▽自分から感謝の気持ちを伝える機会を仕組む。	△自分から感謝の言葉（ありがとうなど）を発している生徒の割合を 85％以上にする。	□自分から感謝の言葉を発している １年　94% ２年　96% ３年　90%	4	4	○いろいろな活動の中で感謝や思いやりの心を育む活動を継続して行う。	□自分から感謝の言葉を発している １年　92% ２年　91% ３年　93% ◎感謝の気持ちをもった言動をしようとする態度を育むことができた。	4	4	5	○引き続き感謝や思いやりの心を育む活動を行う。

２	自分の生活を律するたくましい心と体の育成		見直し	体を動かすことの楽しさに気づき、自ら体力づくりに取組む態度を育む。	▽体育の授業で、個々の体力向上のために、いろんなトレーニングを実践し、取り組ませる。 ▽主体的に参加できるイベントを継続する。	△運動やスポーツをすることが好きな生徒の割合を 70%以上にする。 △体育的行事における生徒の満足度を 90%以上にする。	□運動やスポーツをすることが好きな生徒 １年　72% ２年　66% ３年　66% □体育大会に満足した生徒 97%	３	３	○体育の授業を中心に興味を持たせるような取組を工夫する。 ○縦割りのチームで異学年での教え合いを中心に生徒主体の体育的行事を引き続き行う。	□運動やスポーツをすることが好きな生徒 １年 75.% ２年 69% ３年 60% □持久走記録会に満足した生徒 78% ◎主体的に参加できる行事等を仕組むことはできたが、自ら体力づくりに取組む態度を育むことはできなかった。	２	２	３	○体育の授業を中心に体力向上に関しての意識や興味を持たせるよう工夫をする。 ○体育的行事は引き続き生徒主体の行事として行う。
２	教職員がやりがいと充実感をもち、元気に働くことができる環境づくり		見直し	教職員一人一人が主体的に学校運営に参画しようとする意識を育む。	▽分掌について目的と方向性を確認しながら企画立案する。 ▽各自が自己研修計画を作成し、授業等に取組ませる。	△時間外勤務時間が 45 時間を超える教職員を０人にする。 △仕事に意義とやりがいを感じている教員の割合を85%以上にする。 △本音を気がねなく発言でき、個性が認められているという実感がある教員の割合を 70%以上にする。	□４～８月平均 45 時間を超える教職員 49%（51/105） □意義とやりがいを感じている 87% □本音を気がねなく発言でき、個性が認められている 60%	２	２	○時間外勤務を削減する仕組みづくりを行う。 ○個々の取組を評価し、認め合う機会を設定する。 ○安心して安全に働ける学校づくりを行う。	□１０～１月平均 45 時間を超える教員 44% （37/84） □意義とやりがいを感じている 90% □本音を気がねなく発言でき、個性が認められている 62% ◎教職員一人一人が主体的に学校運営に参画し、取組をすすめることができた。	３	２	３	○行事や取組の意義を再考し、業務の見直しを進めていく。 ○引き続き個々の取組を評価し、認め合う機会を設定する。 ○安心・安全に働ける学校づくりを行う。
２	地域・保護者から信頼され、通わせてよかったと思われる学校づくり		見直し	地域・保護者からの満足度の高い学校運営を行う。	▽積極的に学校の活動を地域・保護者に発信する。 ▽地域の公園の管理や環境活動など持続可能なまちづくりを教育課程に位置付ける。	△学校の取組がよくわかると回答する保護者の割合を 80%以上にする。 △子どもは学校生活に満足していると回答する保護者の割合を 80%以上にする。 △地域を住みよいまちにしていくために貢献していると答える生徒の割合を 70%以上にする。	□取組がよくわかる 83% □子どもは学校生活に満足 89% □貢献している １年　55% ２年　60% ３年　52%	３	３	○HP 等で情報等を引き続き発信する。 ○安心して安全に学べる学校づくりを行う。 ○地域との連携により、地域行事等へのボランティア等の積極的な参加を働きかける。	□取組がよくわかる 79% □子どもは学校生活に満足 82% □貢献している １年 68% ２年 58% ３年 51% ◎評価指標を全てクリアできておらず、地域・保護者からの満足度を高めることはできていない。	３	２	３	○保護者へ行事への参加を周知し、学校の様子を実際に見てもらう機会を増やしていく。 ○引き続き地域との連携により、生徒の地域でのボランティア活動をさらに充実させるとともに、取組を評価していく。

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	１００％以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	８０％以上１００％未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	６０％以上８０％未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	４０％以上６０％未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	４０％未満の達成度	目標を達成できなかった。